

## 平成28年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	60	学校名	静岡県立榛原高等学校（全日制）	記載者	副校長 鈴木安雄
------	----	-----	-----------------	-----	----------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	学校関係者の意見
ア	規律ある中での伸びやかな人間関係づくり	毎朝の昇降口での指導継続	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の多忙感につながらないようにしたい。足を揃えての挨拶は継続してほしい。</li> <li>・評価が「実感査定」要素が多く、やや信憑性に欠ける。</li> <li>・登校指導時、生徒の気持ち良い挨拶が聞かれ、素晴らしく思う。</li> </ul>
		基本的な生活習慣の確立	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外で見られる生徒の挨拶や規律等、指導体制が十分評価できる。</li> <li>・他校に比べれば遅刻は少ない。遅刻は校内規律の乱れにつながる。これからも継続指導をお願いしたい。</li> <li>・自転車の通学でひやっとすることがある。</li> </ul>
		学習中は携帯・スマホの電源を切るというマナー指導の継続	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規制とともにマナーを充実させたい。生徒自らルールづくりをしてはどうかと考える。</li> <li>・評価基準が不明確。過去の実績の推移も分からない。数値化された目標設定がよいと思う。</li> <li>・スマホに依存しない生活習慣をつけさせたい。</li> </ul>
		いじめの認知件数0件 非行等の問題行動0件	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ根絶とは言うが、認知し解消しているならばよしとしたい。目標が高すぎると思う。</li> <li>・表に出ていないことがないか心配である。</li> <li>・先生方が家庭との連絡を取り、十分対応してくださっていると思う。</li> </ul>
イ	高い学力とコミュニケーション能力の育成	「授業の内容が分かる」と答える生徒 80%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い学力層に対応した学習集団を編成するのが高校では良い。</li> <li>・明確な基準作成と、授業を理解できていない生徒へのフォロー策を充実してほしい。</li> <li>・テストや補習等も実施して、学力の向上に尽力していると思う。</li> </ul>
		「自分の考えや成果を発表する機会が与えられている」と答える生徒 80%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの教科においても、自分の考えをまとめる、振り返るなどの活動により、主体的に学ぶ授業を実践したい。</li> <li>・授業の雰囲気などがなごやかに進められ、気軽に指名できれば生徒の発表力も上がると思う。</li> <li>・アンケートにおいて「どちらとも言えない」という生徒への働きかけを工夫する。</li> </ul>
		医療系・科学技術系人材育成事業への満足度 90%以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力向上につながることを確信した。モチベーションも上がっているので更に推進したい。</li> <li>・事業成果が地域の活力につながることを期待している。</li> <li>・90%は非常に高い達成度であるのでAが相当。評価方法に改善の余地がある。</li> </ul>
ウ	「自立した榛高生」の育成	家庭学習時間前年度比 20%アップ	C	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習時間の確保と質の向上を求めたい。</li> <li>・時間も重要だが、集中して学習する指導をお願いしたい。</li> <li>・地区会で家庭学習についての課題が多く聞かれた。</li> </ul>

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	学校関係者の意見
		「弁当の日」の取組を推進	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的と効果を持つての取組であると思うが、個々の家庭での取組や実態を把握する必要があるはしないか。</li> <li>男女平等の社会において必要なスキルであり、よいイベントである。自分の弁当のカロリー計算、食材の生産・流通等の学習に繋がると更によい。</li> <li>父親への感謝がもっとないものかと思う。</li> </ul>
		生徒の学校満足度90%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>満足度を上げていくことが、学校の雰囲気、校風を創り上げていく。</li> <li>満足していない割合は生徒と保護者で一致している。何が不満なのかを具体的に把握する必要がある。</li> <li>満足していない理由等の分析があるとよい。</li> </ul>
		1人の読書量年間10冊以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書に充てる時間の中で10冊以上ということであれば素晴らしい。</li> <li>読書離れが言われている昨今だが、勉強、部活、ボランティア等、期待されているものが多く大変だと思う。</li> <li>高い目標を設定してほしい。卒業生や地域から寄付を募るなど、図書室の更なる充実をお願いしたい。</li> </ul>
エ	進路希望の実現	センター試験偏差値全教科50以上 国公立大学合格者55人以上 医療系大学合格者30人以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>半数の教科で全国平均を上回る結果が国公立大学への出願につながる。学びたいことが学べる大学への進路指導を期待する。</li> <li>センター試験は例年より良い結果だった。</li> <li>教員は大変だと思うが、粘り強く目標達成に向けて頑張してほしい。</li> <li>2年次から理数科(コース)を実施することを検討しても良いかもしれない。</li> </ul>
		初期指導、面接指導などの進路指導関係の取組の充実	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「遠くを臨み、近くを見つめる」目標を持たせることが大切であるから、初期指導の充実をお願いしたい。</li> <li>アンケートで悪いと答えた生徒はごく少数であるが、原因を探る必要がある。落ちこぼれにさせないように。</li> <li>アンケートについて、(あまり)できていない生徒が10%以上いるのは問題のような気もするが、それ以外の生徒が満足していると考えればB評価の妥当性もある。</li> <li>個別の教科指導、進路指導を丁寧に行っている。</li> </ul>
オ	授業力向上に向けた教員研修の推進	教職員の自発的な研修への参加年1回以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善への取組は教員の使命。是非全員の教員が研修を行いたい。</li> <li>授業見学は先生の授業力を高めることはもちろんのこと、生徒個々の様子を見るチャンスでもある。</li> <li>研修は回数ではなく、力量の向上、活用が評価されるべきで、教育実践の妥当性の評価確認も必要がある。</li> <li>忙しい中で、先生方は積極的に取り組んでいただいていると思う。</li> </ul>
カ	教職員の協働体制の確立	分掌を超えたプロジェクトチーム「榛原サイコウ委員会」による将来構想の策定	C	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会があることを知らなかった。素晴らしい事業ができればいい。</li> <li>具体的な検討の進捗状況によってはBでもよいと思うが、計画の遅れの状況により評価が変わる。</li> <li>具体的な話があまり進まなかった。</li> </ul>

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	学校関係者の意見
		教職員のやりがい満足度 90%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人事評価制度の活用、面談等の様々な機会を捉えて、声掛けやコミュニケーションの必要を感じます。</li> <li>教職員の人間関係が難しいのかも。事務室の明るい雰囲気全体が全体の雰囲気を変えたいと思う。</li> <li>職員のやりがいについて具体的意見を汲み取り、改善策をお願いしたい。</li> </ul>
キ	安心安全な学校づくり	学校支援アドバイザー、心の相談室などの積極的活用	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ケース会議の確保は難しいが、情報共有することは必要。生徒のためにアドバイザーの活用をしてください。</li> <li>安心して登校できる環境整備を今後も推進してほしい。評価については、派遣内容やその成果を判断基準にする必要がある。</li> </ul>
		安全点検 月1回	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全管理は際限がない。保護者の「当てはまらない」2%の具体を掴む必要がある。</li> <li>目的は危険回避であり怪我をしないことである。危険な箇所は優先順位をつけて修理・修繕し、その他の箇所も注意喚起を確実にしなくてはならない。怪我をした人数の減少率による評価がよいのではないかと。</li> </ul>
ク	開かれた学校づくりと広報活動の充実	地域貢献活動参加者延べ参加人数 300人以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた時間の中で地域へ参加することは素晴らしいことです。</li> <li>地域貢献意識が高まっており、いくつかの市のイベントで高校生の働きに賞賛の声があがっている。</li> <li>イチョウ並木の清掃を来年度も美化運動の行事として自主参加をお願いしたい。</li> </ul>
		牧之原市、静岡県立大学、自治会、近隣の保育園、幼稚園、小学校と連携した「榛高生地域リーダープロジェクト」の推進	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>この事業から学ぶことはたくさんある。次世代の地域リーダー、主権者教育、アクティブラーニング等、全ての点でプラスに働くと感じる。継続したい。</li> <li>事業の継続を望む。こうした取組が大学への進学に有利に効果を発揮できればいい。</li> <li>よい活動である。評価基準が参加人数なのか、活動内容に重点を置くのかが分かりにくい。</li> </ul>
		中学校訪問大使 年4回	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>母校を訪問した生徒は自信につながり、次への意欲が増大したと思う。多くの生徒に体験させたい。</li> <li>実績がよく分からない。今後の課題について改善できるとよい。</li> <li>他の中学校での活動も増えると良いと思う。</li> </ul>
		保護者や中学生のための進路勉強会 年6回以上	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者は情報を欲しがっている。積極的に勉強会を開催してほしい。</li> <li>A評価でよいが、開催回数、参加人数、満足度、あるいは総合のいずれかで評価するのかの基準が不明確である。</li> <li>保護者の方々から大変ためになったと意見をいただいている。</li> </ul>
		保護者の学校満足度 90%以上	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞報道等で高校の活躍が報じられると保護者や地域は嬉しく思います。静岡新聞によく載っている。</li> <li>熱心に情報発信しても受け取る側の事情もあり、正しく迅速に伝わることは難しい。</li> <li>16%の「あまり当てはまらない」という方の理由が分かれば、満足度向上につながると思う。</li> </ul>